

都市再生整備計画 事後評価シート
新湊地区

令和4年3月

富山県 射水市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	富山県		市町村名	射水市		地区名	新湊地区		面積	116.3ha			
交付期間	平成30年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	520.0百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	交通広場整備(地域生活基盤施設 広場)、案内板設置(地域生活基盤施設 情報板)、(市)港町善光寺線歩道(緑地)部(高質空間形成施設)、(市)新湊270号線(高質空間形成施設)									
	当初計画から削除した事業		事業名										
			提案事業	広場空間賑わい創出支援設備整備(地域創造支援事業)、事業効果分析調査(事業活用調査)									
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	(仮称)みんなと通り整備(高質空間形成施設)		大通りを整備し、キッチンカー等による販売を行うことで、観光客や地域住民の利便性向上と賑わい創出を図るため追加			内川への回遊性を高めるものであり、指標への影響は生じない				
交付期間の変更		当初	平成30年度～平成33年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	平成30年度～令和3年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
								モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標1	西新湊乗降客数	人/年	233,027	H26	238,000	R3	-	147,800	×	あり	新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響により、西新湊駅のみならず万葉線全体の乗降客数は近年の傾向を大きく下回った。	令和4年9月
											なし	今後、クロスベイ新湊と宿泊施設との相乗効果により、乗降客数の増加が見込まれる。	
	指標2	ロケ地来訪者(川の駅)数	人/年	35,439	H26	39,000	R3	-	25,300	×	あり	新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響により、来訪者数の増加には至らなかった。	令和4年9月
										なし	良好な環境が整備されたが、新湊地区の人口が一貫して減少傾向にあることから、地区内人口の維持には至らなかった。	令和4年9月	
指標3	地区内人口数	人	7,864	H29	7,860	R3	-	7,172	×	あり	複合交流施設(クロスベイ新湊)と併せた交通広場、展望台等の整備により、施設の魅力やアクセス性が高まり、一定の入込客数確保につながった。	令和4年9月	
										なし	今後、クロスベイ新湊と宿泊施設との相乗効果により、更なる入込客数の増加が見込まれる。		
指標4	複合交流施設入込客数	人/年	0	H29	73,800	R3	-	79,700	×	あり	複合交流施設(クロスベイ新湊)と併せた交通広場、展望台等の整備により、施設の魅力やアクセス性が高まり、一定の入込客数確保につながった。	令和4年9月	
										なし	今後、クロスベイ新湊と宿泊施設との相乗効果により、更なる入込客数の増加が見込まれる。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
								モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標1	「きときとバス」クロスベイ新湊バス利用者数	人/年	30,095	H29			-	40,300			旧新湊庁舎時と比べ、複合交流施設(クロスベイ新湊)と交通広場の整備により、周辺のバス停を統合し、待合機能も充実されたことから、バス利用者数が増加した。	令和4年9月
												今後、クロスベイ新湊と宿泊施設との相乗効果により、更なる利用者の増加が見込まれる。	
その他の数値指標2	ロケ本数	件/4年	6	H29			-	12			複合交流施設(クロスベイ新湊)の整備が本地区をPRするきっかけとなり、従来から持つロケ地としての魅力がさらに高まり、テレビ・映画等でのロケ件数が増加した。	令和4年9月	
											複合交流施設(クロスベイ新湊)と交通広場、展望台等の整備や放生津地区住宅市街地総合整備事業などの実施によって中心市街地の魅力が高まり、転出者数が減少して社会減の進展が改善された。	令和4年9月	
その他の数値指標3	地区内人口の社会増減	人/4年	-712	H29			-	-684					令和4年9月
4) 定性的な効果発現状況	旧新湊庁舎跡地に複合交流施設(クロスベイ新湊)が整備され、射水ベイエリアの新たな観光交流拠点として射水の魅力を発信し、市民と観光客との交流の場が創出された。 令和5年上半、クロスベイ新湊に隣接して宿泊施設(ホテル)が開業予定である。 クロスベイ新湊や周辺道路の整備によって、まちの雰囲気明るくなり、観光客の方に対して案内しやすくなった。												
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた							
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
住民参加プロセス		市広報等を活用した市民に対する事業PR、NPO法人「水辺のまち新湊」との連携			都市再生整備計画に記載し、実施できた			引き続き市民に対する事業PRに努め、整備施設の利用促進を図っていくほか、NPO法人「水辺のまち新湊」の活動と連携しながら、地域の魅力向上に努めていく。					
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
持続的なまちづくり体制の構築		新湊地区まちづくり協議会の設立			都市再生整備計画に記載し、実施できた			新湊地区まちづくり協議会を母体とし、まちづくりに係る地区内の他の団体組織と連携、意見交換しながら、官民協働による取組みを継続・推進していく。					
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2 - 2 地区の概要

新湊地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 中心市街地の魅力再生と内川から中心市街地への景観づくりによる活力あるまちづくり	西新湊駅乗降客数	単位: 人/年	233,027	H26 238,000 R 3 147,800 R 3
目標1 中心市街地の拠点性と魅力向上を図る。	口ケ地来訪者(川の駅)数	単位: 人/年	35,439	H26 39,000 R 3 25,300 R 3
目標2 地区が持つ景観、伝統文化を活かし、内川と中心市街地が一体となった景観づくりを図る。	地区内人口数	単位: 人	7,864	H29 7,860 R 3 7,172 R 3
目標3 良好な住環境整備により、地域住民の快適な暮らしの向上を図る。	複合交流施設入込客数	単位: 人/年	0	H29 73,800 R 3 79,700 R 3

高質空間形成施設
(市)港町善光寺線歩道(緑地)部整備

(市)港町善光寺線歩道(緑地)部整備

交通広場整備

(仮称)みんなと通り整備

関連事業
放生津地区住宅市街地
総合整備事業

地域生活基盤施設
案内板設置

地区名: 新湊地区
区域面積: A = 1116.3ha

地域創造支援事業
広場空間賑わい創出支援設備整備

高質空間形成施設
(市)新湊270号線路肩部整備

関連事業
新湊庁舎跡地整備

地域生活基盤施設
交通広場整備

高質空間形成施設
(仮称)みんなと通り整備

地域創造支援事業
展望台・展望階段整備

事業活用調査
事業効果分析調査

凡例
■ 基幹事業
■ 提案事業
--- 関連事業

展望台・展望階段整備

案内板設置

(市)新湊270号線路肩部整備

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 複合交流施設(クロスベイ新湊)と交通広場、屋根付き通路、展望台及び展望階段を一体に整備することで、交流拠点としての機能が強化され、地区の拠点性が高まり、新たな観光の玄関口が創出された。 歩道の整備とカラー舗装を行うことで、安全・快適な歩行空間が確保された。 (仮称)みんなと通りの整備により、万葉線から内川へのスムーズな観光誘導が図られた。 電源供給設備の整備により、地域住民や観光客がイベント時等において快適に集える環境が創出された。 地区内の豊富な観光資源へ誘導する案内板の整備により、観光客の利便性が高まった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症収束後を見据えた観光誘客や地域住民の施設の利活用促進を図り、交流人口の拡大と賑わいを創出する。 地域住民や観光客が各種の魅力あるイベントを通じて、交流を深め楽しく過ごせるよう、イベント開催の環境づくりを推進する。 整備された施設・設備を活用し、コロナ禍後におけるPR活動を強化することにより、観光誘客の促進を目指す。 地域住民や観光客が快適に待機し、乗降の利便性の高い交通広場の機能強化を図る。 歩行者が安全で快適に周遊できる歩行者ネットワークの形成を図る。 観光客が長く滞在したくなるような魅力づくりや宿泊機能等の充実により、観光客の滞在性の向上を図る。